

第75回芥川賞

「限りなく透明に近いブルー」

村上龍 (講談社)



第124回芥川賞

「聖水」

青来有一 (文春文庫)



第127回芥川賞

「パーク・ライフ」

吉田修一 (文春文庫)



こっちもオススメ!

第157回直木賞

「月の満ち欠け」

佐藤正午 (岩波書店)



こっちもオススメ!

「国宝」(朝日新聞出版)



任侠の一門に生まれながらも、この世のものとは思えないほどの美貌を持つ男を主人公とした作品。冒頭では長崎の丸山が舞台として描かれ、本をめくる手が止まらなくなるほど物語に引き込まれていきます。吉田氏の作家人生を代表するくらいの最高傑作です!!

「鳩の撃退法」(小学館)



うだつの上からない小説家が主人公の物語で、佐藤氏だからこそ書ける緻密で奇想天外なストーリーが魅力。直木賞を受賞した「月の満ち欠け」と同じくらいファンが多い作品です。佐藤氏のサイン会は、メトロ書店でしか開催されたことがないんですよ。

秋の夜長に1冊いかが?

長崎ゆかりの作家  
作品特集

日本、西欧、中国の文化が混ざり合った長崎の街は、魅力的な舞台としてさまざまな小説に描かれています。そんな長崎は、ひとりで言い表せないくらい多彩な作家を生み出す土壌にもなりました。長崎の書店で読書アドバイザーを務める川崎綾子さんを案内役に、長崎ゆかりの作家の作品をほんの一部ですが紹介します。



メトロ書店 常務取締役  
川崎 綾子さん

出版文化産業振興財団(JPIC)の公認読書アドバイザーの資格を持ち、年間100冊以上を読破する。メトロ書店は長崎市の本店をはじめ、福岡市や神戸市にも展開。作家のサイン会なども積極的に開催している。詳しくはHP(<http://www.metrobooks.co.jp>)

今熱い!長崎出身の作家

「遠い山なみの光」

カズオ・イシグロ、小野寺健 訳 (早川書房)



2017年にノーベル文学賞を受賞した長崎出身のカズオ・イシグロ氏。この作品は娘を自殺で亡くした女性が主人公で、原爆投下後の長崎が舞台として描かれています。稲佐山や地元百貨店の食堂など、長崎市民にとって馴染みの場所も登場します。

「長崎・オランダ坂の洋館カフェシュガーロードと秘密の本」

江本マシメサ (宝島社)



東京から長崎に移り住んできた女子大生が、ツンデレイケメンのカフェオーナーに翻弄されながらも、カフェや長崎の歴史に夢中になっていきます。江戸時代、出島で輸入された砂糖が運ばれたシュガーロードについても勉強できる作品。

「信長の原理」

垣根涼介 (KADOKAWA)



ハードボイルド系の作品に定評のある垣根氏ですが、本作は織田信長の内面を描き出した歴史小説。戦国時代を舞台にした物語なのに、会社組織など現代人の心理に通じる部分がたくさんあります。

「パラレルワールドで待ち合わせ」

白石泰三 (サンマーク出版)



スピリチュアル好きな人に向けたセミナーを開いているが、目に見えないものに懐疑的な主人公。そんなある日、「スピリチュアルなんてくだらばいいのに」という女性と出会い、長崎・台湾・東京を舞台としてさまざまな出来事が巻き起こります。

「桜風堂ものがたり」

村山早紀 (PHP研究所)



大人向けのファンタジー作品を得意とする村山氏。この作品は、存続の危機にある地方のとある書店を舞台に、店を任された主人公が奮闘する姿を描いています。私たち書店の仕事や万引の実態など、とても良く取材されています。

「陽光」

松嶋圭 (祥書院)



宮崎市出身で熊本在住の精神科医による短編小説集。長崎島の離島、壱岐島を舞台にした16編を収録しています。松嶋氏はファッションブランドのブラダが主催する国際文学賞を、日本人で初めて受賞した注目の作家です。